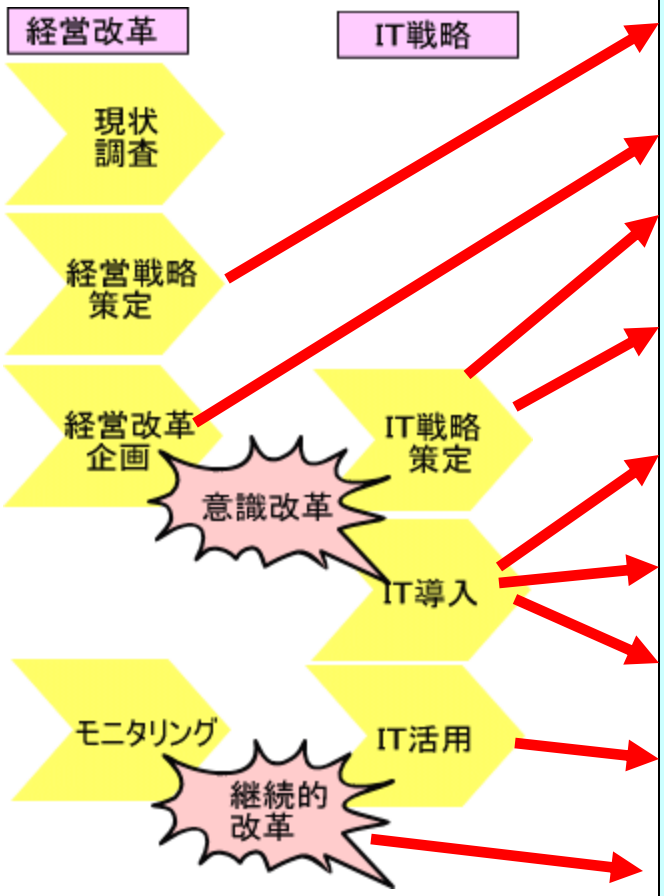
ＩＴマネジメント・フォーラム2011

失敗しないシステム導入のポイント

2011年11月22日

株式会社ＩＴイノベーション
代表取締役　秋山　剛

失敗しないシステム導入



①経営幹部がプロジェクトに参画する

②現場のリーダーを巻き込む

③IT導入の目的を明確にし意識を統一

④成熟度に合ったＩＴを

⑤入力作業の負荷を最小限に

⑥ポカ除けの仕組みを最大限に

⑦真の「見える化」の実現

⑧各担当者のIT活用促進

⑨継続的な改善を実施する

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

①経営幹部がプロジェクトに参画する

システムの導入をIT担当者に任せっ放しではダメ
経営課題を解決するために経営幹部も積極的に参画すべき

「わしはITのことはようわからんから、任せたぞ！」ではダメ
社長または経営幹部（できればCIOを任命する）がリーダーシップを発揮して、システムの導入に積極的に関ることが重要。
IT担当者に任せていては業務改善のレベルに止まり経営改革は実現できない。
ITのことがわからなくても、常に経営課題の解決に向けた方向性をプロジェクトのメンバーに示す必要がある。

CIO:chief information officer　最高情報責任者 / IT担当役員
企業において自社の経営理念に合わせて情報化戦略を立案、実行する責任者のこと。

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

②現場のリーダーを巻き込む

現場リーダーのITに対する意識が結果を左右する
ITを使わされるのではなく、進んで活用する意識付けが重要

「生産管理システム」は製造に直結したシステムです。
管理部門のみが運用するのではなく、製造現場での活用が重要です。
「在庫をリアルタイムに把握する」「製造の進捗を監視する」
「実際原価を把握する」等、製造現場での実績収集が必須となってきます。
そのためにも速い段階から製造現場のリーダー格の方にプロジェクトに参加してもらい、経営課題の認識を含めなんのためにITを導入するかの目的意識を共有する必要があります。

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

③IT導入の目的を明確にし意識を統一

目的が明確でないと間違った方向に進む恐れあり
目的を明確にして、関係者全員に周知徹底を図ることが重要

「リアルタイムに在庫が把握できるようにしたい」という目的でIT導入を進めても、その目的が周知徹底されていないと、担当者と仕様決めをした際に、「その都度入力するのは手間が掛かるので、１日分まとめて入力できるようにして下さい」等の要望があがり、結局リアルタイムに在庫の把握ができない結果になってしまいます。
何のためにITを導入するのか、経営課題と関連付けて関係者全員に周知徹底を図り、全社一丸となって課題解決を目指しましょう

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

④成熟度に合ったＩＴを

成熟度の低い現場に高度なＩＴを導入しても機能しない
現在のレベルを把握して身の丈にあったＩＴを

成熟度	定義	内容
０	存在しない	ものづくりにITなんて必要ない！
１	初歩的	ITの活用も必要だと思うが、人材もいないし、費用もかかるから・・・
２	反復可能	エクセルで管理資料の作成等に活用している
３	定義されている	システムを導入して誰もが同じ作業ができるようになっている
４	管理されている	システムの見直しも実施し、改善を行っている
５	最適化されている	改善のサイクルが定着し、常に最適なシステムに保たれている

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

⑤入力作業の負荷を最小限に

現場はもの作りが仕事、システムの操作は仕事ではない
入力作業の負荷が最小限になるような仕組みに

生産実績を収集するためには、製造現場での入力作業が必須となります。
しかし、実績収集を重視するあまり、入力作業に時間が掛かって製造リードタイムが延びては何にもなりません。
バーコード・二次元コード・RFID等を活用して、入力作業の負荷が最小限になるように工夫が必要です。

二次元コード：水平方向と垂直方向に情報を持つ表示方式のコードのこと。（QRコード等）
RFID：ID情報を埋め込んだタグから、電磁界や電波などを用いた近距離の無線通信によって情報をやりとりするもの

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

⑥ポカ除けの仕組みを最大限に

現場改善の基本！ヒューマンエラーをゼロに！
ITを現場改善に有効に活用しよう！

人間にミスは付きものです。在庫管理の仕組みを構築しても
入力ミスをすれば在庫は合いません。在庫が合わなくなると
システムの在庫が信用できず、システムが使われなくなって
しまいます。
入力ミスが起こりにくい仕組みや、ミスを発見できる仕組みを
最大限に取り入れることが重要です。
また、システムへの入力ミスだけでなく、作業のミスを防ぐ仕組み
（不良の防止、誤品出荷の防止等）にもITを活用し、現場改善の
ツールとして有効に活用することが重要です。

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

⑦真の「見える化」の実現

キーボードを叩かないと状況が見れない「見れる化」ではなく
問題が発生したら知らせてくれる「見える化」が必要

システムを導入して、活用が進むと
・在庫がリアルタイムに見える
・製造進捗がリアルタイムに見える
等の効果があります。
しかし、一般的には品番を入力して検索しなければ在庫や進捗を見ることができません。これでは「見える化」ではなく
見ることができるだけの「見れる化」です。
真の見える化を実現するには、「アンドン」のように、問題が発生したら知らせてくれる機能の実現が必要です。

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

⑧各担当者のIT活用促進

**完成したシステムを使って業務を実施するだけでなく、
各担当者がシステムのデータを有効活用できるようにする**

「生産管理システム」を導入して、日常業務を効率的に行うことは重要な目的となります。
しかし、それだけではITを充分に活用しているとは言えません。
システムでは、様々なデータを収集することができます。
収集したデータを活用して、管理資料を作成する等
経営や業務の分析及び改善に向けて有効に活用することが重要です。
そのためには、各担当者の「ITリテラシー」の向上も重要となります

ITリテラシー：情報機器やネットワークを活用して、情報やデータを取り扱う上で必要となる基本的な知識や能力のこと

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD

⑨継続的な改善を実施する

システムは導入したら終わりではない
常に環境変化に合わせて継続的にシステムの見直しが必要

企業を取り巻く環境は刻々と変化しています。
システムを導入したら終わりではなく、導入してからが勝負です。
常に環境変化に合わせて継続的にシステムの見直しを実施して下さい。
そのためには、
・経営目標や業務改善目標等が評価できるデータを収集する
・システム導入後に、定期的にフォロー会議等を開催する
等、監視体制と改善のフォローを行うことが必要です。

Copyright (C) 2008 IT Innovation Co.,LTD